

令和4年度 江戸川区立東小岩小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	◎よく考える子 ◎思いやりのある子 ◎たくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・子どもたちが「学校が好き」「学ぶことが楽しい」「友達が大切」と思いながら、生き生きと充実した学校生活を送ることができる学校 ・自分の資質・能力で、自分の未来を広げることができる児童 ・協働して問題解決にあたり、授業力・学級経営力を高めるようとする教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 新型コロナウイルス感染症対策を講じ、学校、家庭、地域で連携して感染防止に努めることができた。 江戸川区教育課題実践推進校として研究発表会を行い、Society5.0の時代を見据えた「新しい学び」の実践に取り組むことができた。 <課題> コロナ禍における教育活動制限の中で「関わりの中で考えを広げていく」ことをどのように推進するか、最適な方策が見つからなかった。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・ペーシッドリルやeライブラリを活用した指導の充実 ・「新しい学び」の実践、プログラミング教育の充実、外部人材の活用、iPadの日常化 ・教員の専門性を活かした教科担任制の実施	・診断テスト正答率70%以上 ・eライブラリを年間200回実施 ・全学年で外部人材との協働学習を1回以上必ず実施する。 ・非認知能力もルーブリック評価で分析	A	A	○eライブラリを活用し、基礎的・基本的な学力の定着を図ることができた。 ○外部人材を効果的に用い、児童の学習意欲を高めることができた。 ●ルーブリック評価をさらにやっていく。	A	着実に向上しているようで何より。引き続き、外部人材を活用した協働学習を積極的にやっていただきたい。	「新しい学び」の実践のためにiPadの活用方法を学び、実践できるようにする。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・校庭・体育館使用を割り当て、感染予防を徹底した上で運動量を確保する。	長縄記録会や学年合同での全校運動遊びを年間20回以上行う。	A	A	○休み時間は、学年やクラスで時間を分けて安全に遊ぶことができた。また、全校運動遊びを計画的に行っている。 ○大規模工事終了後は、長縄チャレンジや縄跳び月間など、計画的に実施できた。	A	引き続き、運動量の確保をお願いしたい。	引き続き休み時間のクラス遊びや全校運動遊びを行っていき、縄跳び月間の実施方法について検討し、効果がより表れるようにする。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・全学年で12時間を本を活用した調べ学習に設定し「本を活用した調べる学習コンクール」へ応募する。 ・朝読書を各教科の学習につなげた授業を実践する。	・「本を活用した調べる学習コンクール」へ、全ての児童が参加する。 ・朝読書と各教科をつなげる単元を設定する。	A	B	○全校で「本を活用した調べ学習コンクール」に参加し、学校図書館を有効活用することができた。 ●朝読書の実態把握と指導計画の見直し課題である。	B	調べ学習において、教冊以上の本を用いて学習できているようで、これから本を読む児童の育成を図ってほしい。	朝読書のほか、公立図書館との連携によって得られた人材を活用し、12時間の探究学習を充実させる。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習	・特別支援教育コーディネーターが中心になり管理職、学校医、巡回指導教員の連携のもと、特別支援教育を進める。	・特別支援打ち合せを毎月1回実施する。 ・特別支援研修会を年3回実施する。 ・当該児童が挙がった際には校内委員会を開催する。	A	B	○特別支援打ち合わせを活用し、配慮児童の実態把握や有効な手立てを校内で共有することができた。 ●復籍交流等は、コロナ禍のため、実施していない。	B	これからも巡回指導の先生方と連携して、児童の育成をしてほしい。	児童や保護者の困り感にスピードをもって対応できるように、特別支援教育コーディネーターを中心とした相談体制を継続する。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	・いじめアンケートを実施し、早期発見と早期解決を図る。 ・関係機関との連携をとって、児童の健全育成を行う。(児童相談所、小岩警察署)	・週に1回、全職員からの報告を行う。 ・各学期に1回いじめアンケートを行い、いじめ・不登校を0にする。 ・虐待等案件の早期対応を図る。	A	A	○いじめアンケートの実施により、いじめの発見、早期解決、家庭でのトラブルの事案の対応が円滑にできた。 ○生活連絡会を週に1回行うことで、全職員で共通理解し、対応することができた。	A	iPadの利用に関して、リテラシーを高める取り組みがあるとよい。	いじめ問題の早期発見・解決を行う。情報リテラシーを高める指導を行う。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学校評議員会や保護者アンケートを実施し、学校の取り組みへの評価、検討を行う。 ・学校ホームページにて情報を発信し、保護者、地域との連携を図る。	・保護者アンケートの肯定的意見を80%以上に上げる。 ・週1回以上、学校ホームページの更新を行う。	A	A	○運動会の保護者アンケートは肯定的意見が90%以上あった。 ○学校ホームページの更新は、週1回以上更新できている(1月12日時点で168回)。	A	学校の教育に関心をもっている保護者は多い、ホームページでの情報発信は、とても有意義なことだと思う。	学校ホームページの更新を今後も継続して実施する。学校評議員会で、学校の様子について確認・評価をしていただく。
	開校70周年記念式典	開校70周年記念式典に向けた各種行事の実施	・教職員、PTA、地域と連携し、開校70周年記念式典を行う。	・児童アンケートで、「学校や地域の下さを感じることができた」という肯定的回答率90%以上に上がる。	A	A	○航空写真の撮影、お祝い集会の実施、記念誌の制作、校内環境の整備に取り組むことができた。また式典に向けた準備を計画的に進められた。 ○PTA、地域と連携し、祝う会、実行委員会を通して円滑に進めることができた。	A	厳しい状況下で、最大限の内容で素晴らしい式典ができた。二年間を通して、準備・運営にいただき、ありがとうございました。	式典も無事に滞りなく実施することができた。引き続き、地域の方々と連携して教育活動に取り組んでいく。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	「学校における働き方改革プラン」に基づき、学校業務の適正化を行う。	・月の時間外勤務が45時間を超える教員を0にする。	A	A	○月の時間外勤務が45時間を超える教員はいなかった。	A	健康に留意して、教育活動にあたっていただきたい。	働きやすいように職場環境を整えていく。時間外勤務時間が長時間にならないよう教職員に呼び掛けて意識を高める。
	挨拶・会釈の定着	児童が自ら進んで挨拶できるようにする指導の充実	・地域と連携した「あいさつ標語コンクール」に取り組み、意識を高める。 ・登校時に、管理職や担任との「挨拶・手指の消毒」をセットで習慣付ける。	・「あいさつ標語」の作成に、全ての児童が参加する。 ・児童アンケートで、「すすんで挨拶をすることができた」という肯定的な回答率を80%以上に上げる。	A	B	○「あいさつ標語」の作成は、児童全員が取り組むことができた。 ●朝の挨拶はできるが、様々な場面、相手などに応じた挨拶ができるよう児童の意識を高めることが課題である。	A	通学路で会う児童や、近所の子どもたちは毎日きちんと挨拶していて、礼儀正しい。挨拶が少なくていけないような子は、自発的に挨拶することに少し戸惑いがあるのかも。	地域に根ざした人づくりのため、「あいさつ標語コンクール」「街角ギャラリ」の取り組みを継続・発展する。
	キャリア教育の充実	ゲストティーチャーや外部人材を活用した問題解決学習の推進	・ゲストティーチャーや外部人材を招いたり、オンラインを活用したりした出前授業を実施する。	・ゲストティーチャーや外部人材を活用した出前授業を全学年で年3回以上実施する。	A	A	○ゲストティーチャーや外部人材を活用した出前授業を計画的に実施することができた。	A	外部有識者やプロの本物の方の声を聞いて、勉強することはとてもいいことだと思う。	引き続き、外部人材を活用した出前授業を実施する。次年度に向けても引き続き行うようにする。